

平成22年度 一般選抜中期日程・経済学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I

問1 (15点)

<解答>

| A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 5 | 4 |

<コメント>

- ・Cの間違いが非常に多かった。
- ・同じ番号を記入している答案も多かった(4を重複して記入しているケースが多い)。
- ・番号ではなく、単語を書いた答案がかなりあった(正解とした)。

問2 (15点)

<解答>

| a | b | c | d | e |
|-----|------|-----|------|-----|
| let | feel | led | sent | are |

<コメント>

- ・選んだ単語が正しければ、活用形が間違っても2点与えた。
- ・let はほとんどできていた。
- ・feel は felt としているものが多かった。
- ・led はあまりできていなかった。let とするものがいくらかいたが活用を間違えているのかもしれない。lead のままの解答も多かった。
- ・sent を send とするものが多く、これも活用をきちんと覚えていないためと思われる。
- ・are は正解がほとんどなく、is とするものが多かった。

問3

(1)

<解答例>

私たちは想像できる限りすばらしい場所にいた。そして私たちは自分たちだけでそこを探検する自由があった。(20点)

<ポイント>

cool : すばらしい, たのしい, 素敵な[カタカナ語は使わない] / the 形容詞最上級+名詞+imaginable : 想像できる最高に~な~, 想像できる限り~な~[最上級の強調表現] / have the freedom to ~ : ~する自由がある / explore : ~を探検する / on one's own : 自分だけで, ひとりで

<コメント>

the coolest place は予想よりはうまく訳せていたようだ。しかし、圧倒的に多いミスは、もともと「涼しい」場所という訳であった。imaginable の後方からの修飾については、比較的うまく訳せていたようである。細かな点ではあるが、imaginable の-able の含意を正確に理解して訳していない答案があった。後半部では we had the freedom to explore it を「わたしたちは自由に探索した」と訳したものが多かった。また、to explore it の explore が他動詞であることを理解していなかったり、the freedom+to 不定詞の部分を正確に訳せていない答案も多かった。explore の訳の間違いで多かったのは、「探す」「探求する」「爆発する」という訳であった。on our own については比較的よく訳せていた。ただ、言葉を正確に訳さずに、雰囲気で「好きなように」と訳す例も多かった。また、「私たちの町で」と訳すケアレスミスの答案が少なからずあった。

(2)

<解答例>

実際、10ドルの塩コショウ入れをめぐるあの一つの顧客サービスの判断は、ついにはディズニーに10万ドル以上儲けさせることになった。(25点)

<ポイント>

end up ~ing : ついには~する(ことになる) / over ~ : ~をめぐる / earn : (利益などを)もたらす, 儲けさせる

<コメント>

どれが主語かがわかっておらず、例えば主語を salt and pepper shaker ととって、「塩コショウ入れが」と書いた後、続きがおかしくなっている文章があった。over ~の意味がとれなくて、「10ドル以上の塩コショウ入れ」、「10ドルを超える塩コショウ入れ」とか、「塩コショウ入れをとりかえる」などの表現が散見された。one customer-service decision の意味がとれず、「一人の客への決断」としたり、customer を「消費者(それは consumer では?)」「店員」などと取り違えていた。end up ~ing の意味がとれていなくて、end up だけを単独で把握して「やめさせる」「終わらせる」「なくなる」などと訳し、かつ~ing を別に取り出して「~し続ける」と訳したものが多かった。

最後に、漢字の間違いが多い、「稼ぐ」が「嫁ぐ」になっていたり、「顧客」の「顧」が誤っていた。

(3)

<解答例>

私の両親はディズニーワールドへの訪問を彼らのボランティア活動の不可欠な一部とした。(15点)

<ポイント>

make : ~を~にする / visits to ~ : ~への訪問(文の目的語) / a integral part of ~ : ~の不可欠な一部(文の目的補語)

<コメント>

make (～を～にする) が読み取れておらず、他の単語の意味はほとんど理解できていても、文全体の意味がまったく把握できていない答案が目についた。

(4)

<解答例>

利益と損失を測る方法はひとつではない。あらゆるレベルで、組織は思いやりを示すことができるし、そうすべきである。(20点)

<ポイント>

more than one～：二つ以上の/heart：温かい心，思いやり

<コメント>

予想通り、「一つ以上の方法」という答えが多かった。institutions という語が難しかったようで、間違った訳が多かった(「憲法」という訳も見られた)。have a heart の訳だが、「心をつかむ」などと訳するのは誤りである。全体的に良く点が取れていた。

問4

<解答例>

12歳の子が興奮し過ぎたせいで塩コショウ入れが手から落ちたこと(塩コショウ入れを落としたこと)[落ちること/落とすこと]。(15点)

<コメント>

本文中の We paid ten dollars for the gift, headed out of the store, and skipped up Main Street in search of the next attraction. I was holding the gift, and in a horrible instant, it slipped out of my hands. が重要な部分だと気付いた者は多かった。ただこの箇所は設問部分の a fall due to a twelve-year-old's overexcitement のうちの overexcitement (興奮し過ぎ) についてははっきり触れていないので、補う必要があるが、これを落とした解答がかなりあった。

skip を「すべる」と理解して、設問中の fall については、少年がすべって転んだと取った解答が相当あった。また、塩コショウ入れを落としたのが、少年ではなく少女だとか、年齢が20歳になっているのも結構あった。また、「衝撃」という語を使った解答がかなりあったが、「落とした衝撃で塩コショウ入れが壊れた」とか「塩コショウ入れが壊れたのが衝撃だ」というように分かれた。そして、解答の半分くらいは、少年が塩コショウ入れを落としたのは、店の責任だとか、少年が品物を落とさないように店はしっかり包装すべきだったとか、店が責任を感じて別の品物をくれたことをポイントにしていた。

問5

<解答例>

会社の営業方針では、従業員は壊れた塩コショウ入れの交換に親切に応じることはできないこと。(15点)

<コメント>

とくに目立った傾向はなかった。文脈を理解して的確に解答している答案とまったく理解できていない答案にはっきり2分された。

II

問1

<コメント>

構文も語句も比較的平易な英語で答えられるので構文レベルや語彙での大きな問題は比較的少なかったが、全体的には正確さに課題があり、よく知っている語句においてもそれが目立った。代名詞の混乱、よく知っている語の綴りの誤りも目立った。

(1)

<解答例>

On these sites, members each have a page to introduce themselves and blog about their lives.

(15点)

<コメント>

構文については重文でも、単文2つでもよいとした。部分的なポイントは site に対応する前置詞を知っているか、introduce + 再帰目的語[再帰代名詞]の形を使えるか、each の用法を知っているか、注で出している blog を意味の類推から write about のように使えるか、life の複数形が書けるか、である。

on についてはいろいろな解答があった。

introduce に続く語が me, myself, others になっていたり、綴りの誤り (theirselves, theirsolve, thereself など) が目立った。introduce 以外にもいろいろな動詞が使われていた。中でも explain と show (themselves) が多かった。時々 complain があったが、これは多分 explain の勘違いかと思われる。またインターネット関連のカタカナ語もよく使われていたが、綴りの誤りが多かった。(teach their) prophel, (make their) profil, (write their own) profeel, (say about their and) profil など。

blog の後の about はあったりなかったりだった。

life の複数形については、その前の所有格が様々で (my が多かった)、それに合わせてあるいは無関係に live, life, lives などこれも様々だった。

(2)

<解答例>

Photos, music, and videos can be added. And people can leave comments on their friends' pages.

(15点)

<コメント>

構文は2つの単文でも、重文でもよいとした。前半は主語を何にするかで能動態あるいは受動態のどちらでもよいとした。部分的なポイントは主語と態が対応しているか、「残す」に対応して leave

が使えるか、複数形の所有格の形を知っているか、page に対応する前置詞を知っているか、名詞の可算/不可算に気づいているか、である。

主語を人 (they など) にして能動態で書いた解答も多くあった。その中で多く見られた誤り例は they/we/you/I can add to pictures ~ である。多くの受験生が add という語を思い出せたが、正しく使えなかった。語の学習では意味とそれにつながっている文法的機能 (どのような文型であられるか) について十分に学習することが重要である。主語の誤り (it) も多かった。add 以外の動詞では (it/they can) plus, (you can) increase (for photos ~), up [upload のことか?] (videos), show などがあった。

「残す」に leave を対応させた解答は比較的多かったが、その中には (can) left が少なからずあった。他の動詞では (people can) remain がとても多かった。remain の意味を正しく知っていれば起こらない誤りである。その他に散見された動詞として join があった。これは「友人たちのページに入っていく (加わる, 参加する)」という発想から出たのかもしれない。カタカナ語の「コメント」はそのまま使えるが、messages の使用が目立った。

所有各の複数形は単数形も含めていろいろなパターンがあった。小さなことのようにも決まった形があるので、きちんと正しい書き方を学んでおきたい。

page に対応する前置詞はいろいろ見られた。photos, music, videos の単/複数形も様々だった。どれもお馴染みでよく使う語なので正しく使いたい。

・代名詞の混同

(1) と (2) の両方に「自分」があるが、文脈からそれぞれが指し示す対象は「会員 (自身の生活)」と、「人々の友人たち」である。かなりの受験生が、「自分=受験生本人」と解釈し、my と書いていた。

・綴りの誤り

綴りの誤りの原因には、発音の誤りの反映、似た音/同音を持つ語との混同、鏡映文字的混同が見られる。

photo : phograph, phtgraph, fotografe//themselves : thereself, theirselves, theirsolve//site : cite, sight//their (site) : there (sight) //music : musick //plus (add の代わりに使われた) : plas, plase// add : odd, addict, aid, abb, attain//page : pasi, pase, parge//write : wright//video : bedeos, vimeo//people can left their comment//And people can leave messages//These website can join/remain//You can increase for

問 2 (30 点)

<解答例>

There are many ways one could use 100,000 yen. However, I think the best way is to invest in stocks. First, investing in stocks is a good way to increase one's money. Many people like to save their money in bank accounts. However, because interest rates in Japan are so low, it is hard to increase one's money just by saving it. Thus, investing in stocks is a better way to make money. Second, investing in stocks is a good way to learn about the economy. In order to invest in stocks, one must know a lot about companies, the market, and economics in general. Thus, it is a great way to learn about economics and finance. It is for these reasons that I think investing in stocks is the best way to use 100,000 yen.

<採点基準>

この問題を通じて受験生は自分の意見やその理由を明確に述べられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、をみたかった。採点は以下の3つの基準に沿って行った。

- 1) 内容(10点): アイデアの展開の仕方・論理性、理由を十分に説明しているかどうか、などをみている
- 2) 構成(10点): 導入文があるかどうか、構成を論理的に見せるための **discourse markers** や接続詞などが効果的に使われているかどうか、などをみている
- 3) 英語力: 内容が理解できるかどうか、文法・綴り・句読法が正確に使われているかどうか、高いレベルの言い回しや語彙が使われているかどうか、などをみている

<解答の傾向>

ほとんどの受験生は問題の意図や答え方の指示(意見と少なくとも2つの理由を書かなければならないこと)を十分に理解できたように感じた。また構成の面において、導入文や **discourse markers** を使った受講生は多かった。ただ、解答の展開の仕方や文法・語彙力においては問題がやや多かった。

<解答の展開の仕方>

この問題では受験生は自分の意見とその意見を支えるための理由を書くように求められていた。ほとんどの受験生はその指示に従って解答を書いたが、理由を十分に説明できず、解答が展開させられていないため高い点数が取れなかった解答がほとんどだった。理由を簡単に書くだけでは足りない。より良い解答を書くには、例や詳細を用いながら理由を十分に説明する必要がある。

<文法力・語彙力>

簡単な文法・語彙・綴りの間違いが目立ってしまった。特に気になったのはスペルミスだ。難しい言葉の綴りを間違えてしまうことはまだ許されるが、問題文自体に含まれている言葉の綴りまで間違えてしまうことはやはり見逃しづらい。一つの例を挙げると、**donate**(寄付する)を **dominate**(支配する)と間違えて書いた受験生はかなりいた。書かなければならないワード数はそんなに多くはないので、書き終えた英文をチェックし簡単な文法ミスやスペルミスを直す時間があるはずだ。解答を書き終えた時点で終わりではなく、最終的なチェックをし、後一工夫を加えよう。